

I 審議・活動の概要

1. 審議テーマへの思い・ねらい

第6期中原区区民会議の審議テーマは「**災害に強い、ユニバーサルなまちづくり**」でした。

※テーマ選定の経緯は「II 審議テーマが決まるまで（P.14～15）」を参照

「**災害に強い**」…先に発生した「熊本地震」等からも防災に関して区民の意識が高いことから、「防災」をテーマとして取り上げることとしました。

また、区民の相互理解推進、地域の情報の共有などを意識し、ソフト面による課題解決をねらいとすることで、地域の防災力の強化だけでなく、コミュニティの強化、子育てなど他の意見が多かった地域課題への包括的な取組へつなげたいという思いが込められています。

「**ユニバーサルなまちづくり**」…弱者支援や助け合いの視点を重視し、誰もが防災に関する情報を得やすく、誰もが災害時に避難・救助がしやすい「ユニバーサルなまち」をねらいとすることで、同時に「来訪者を案内・歓迎しやすいまち」も実現し、もう一方の審議テーマ候補として、最後まで残っていた「オリンピック・パラリンピック」に向けた環境整備へつなげたいという思いも込められています。

2. 取組提案の検討・特に意識された地域課題

任期初年度の平成28年度内に、審議テーマに基づいて、地域課題の解決に向けた取組提案の検討を進め、計8つの取組提案をまとめました。

※提案内容の詳細は「IV 地域課題の解決に向けた第6期中原区区民会議の提案」を参照（P.16～25）

委員の意見交換や区内外の事例紹介を通じた討議を進めていく中で、特に意識された地域課題は以下のとおりです。

「**当事者意識の醸成・啓発**」…防災に関する意識が低かったり、知識が無い・少ない区民がまだ多いこと、避難所の開設や運営に係る取組について、地域によって大きな差があることなどが指摘され、より多くの区民の防災に関する当事者意識を高めることが課題と認識されました。

「弱者支援」…高齢者や障害者、子どもなどの弱者だけでなく、防災について必要な情報が届いていない「情報弱者」について指摘がありました。特に中原区に多く存在する外国籍市民（文化や言語の違いから情報を得にくい弱者）や転入者（地域をまだ知らない弱者）、情報機器弱者（高齢者など情報機器を充分活用できない弱者）などを意識した課題解決策の検討を進めました。

これらの課題意識から課題分野として、より多くの区民に防災に関する情報を届け、防災意識を啓発する「防災情報の発信・伝達」、地域毎の取組、特に避難所に関する認知や運営体制の強化を図る「避難所の開設・運営」、ハード面での整備を推進する「災害に強いまちづくり」の3つが設定されました。

3. 取組提案の実践・試行取組の実施

平成 29 年 6 月以降には、これまでにまとめた取組提案について、実践に向けた検討及び実践活動を進めました。

第 5 期までの中原区区民会議では、任期内をいくつかの期間に区切り、それぞれ新たな審議テーマについて討議を進めていましたが、第 6 期では、任期後半の審議テーマや活動内容について話し合ったところ、委員から『ユニバーサルなまちづくり』の観点や、取組提案の内容について更に掘り下げたい」「提案をして終わりではなく、試行的に実践まで取り組むことで、提案の実現性や区民会議の意義を高めたい」との意見が出され、全体の合意を得て、前向きな形で審議テーマの継続を決定しました。（平成 29 年 4 月～6 月）

具体的な活動を進めるにあたっては、専門部会の名称をこれまでの「課題調査部会」から、「取組・実践検討部会」に改めて、有志委員を募り、「親子サッカードリーム教室部会」「中原区総合防災訓練部会」「中原区総合防災マップ部会」の3つの部会を立ち上げて進めました。（平成 29 年 6 月～）

※取組実践の検討、試行的取組の内容については、「II 取組実践の検討と実践結果」を参照（P.6～13）

Ⅱ 取組実践の検討と実践結果

1. 取組の検討と試行取組の実践

任期後期（平成29年6月以降）の活動として、取組検討・実践部会を中心に、これまでにまとめた課題解決に資する取組提案の中から、実践に向けた具体的な検討、試行取組を進めました。

検討・取組の経過は運営部会、区民会議（全体会）の場でその都度報告し、委員全体で意見交換、参与のコメント等もいただきながら検討を進めました。

3つの取組検討・実践部会でそれぞれ検討・実践が進められた内容は以下のとおりです。

取組検討・実践Ⅰ：親子サッカードリーム教室

- ・区内団体等と連携し、体験型防災プログラムのブースを出展
- ・各ブースを回る展示内容や防災に関するクイズラリーを実施
- ・上記を通じたイベント参加者への広報・防災意識の啓発

▶ 7 ページ

取組検討・実践Ⅱ：中原区総合防災訓練

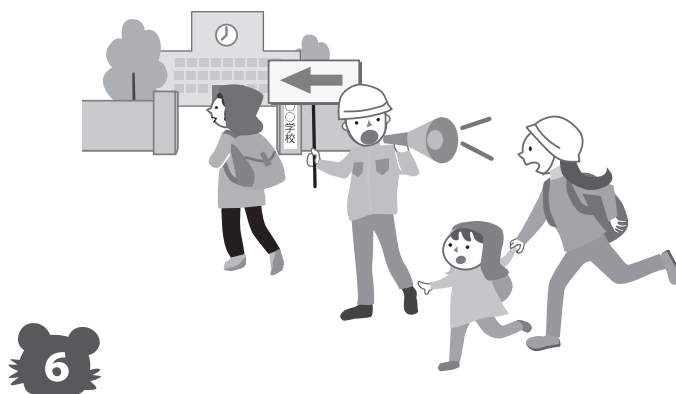
- ・中原区総合防災訓練の視察・避難所開設ツアーへの参加（計2回）
- ・意見・提案等の収集

▶ 10 ページ

取組検討・実践Ⅲ：中原区総合防災マップ

- ・区の実践の進捗確認
- ・コラム掲載内容の提案

▶ 12 ページ



取組検討・実践Ⅰ：親子サッカードリーム教室

基となった取組提案

■取組提案Ⅰ-①：体験型防災プログラムの実施推進

サッカー教室、総合防災訓練などの場で体験型防災プログラムの導入

■提案Ⅲ：防災情報の発信

在宅避難の薦め、家庭内備蓄など必要な備えや、防災に関する知識の発信

■提案Ⅴ：震災体験の講話・講演

震災時の被災地の状況や体験、取組等の発信

取組の検討

(1) 体験型防災プログラムの実践の場

提案時に候補の一つとして挙げられていた「親子サッカードリーム教室」を実践の場とし、区役所担当課、川崎フロンターレ中原アシストクラブと協力・連携しながら、企画の検討・調整を進めました。

【イベントの概要】

例年、会場は等々力陸上競技場で開催。

参加対象は区内小学生の親子 500 組。毎年 1000 名以上の参加実績。

グラウンドでのサッカー教室の他、スタジアムツアー、川崎フロンターレ選手との交流会などのプログラム

(2) 導入プログラムの内容

計 3 回の会議・会場の現地下見を経て、検討を進めました。(▶P.32)

●防災体験プログラムブースの設置

親子サッカー教室のプログラムの空き時間を活用し、参加者に自由に体験してもらうため、スタジアム内のコンコースなどへ体験型防災プログラムのブースを設置しました。

●プログラム内容検討のポイント

- ・同イベントの参加者層を踏まえ、初めて防災に触れる親子が、楽しみながら体験し、その中で防災知識を学び、防災意識を高めるプログラムとしました。
- ・区民会議委員の活動母体である団体や区内企業との連携・協力を通じて、運営の担い手が確保できるプログラムとしました。

●より多くのブースを体験してもらうための工夫

参加者がより多くのブースを体験する動機付けとして、各ブースで出題する「防災クイズラリー」を実施し、回答者に景品を配布しました。

取組検討・実践Ⅰ：親子サッカードリーム教室

取組の実践結果

1)「親子サッカードリーム教室」内での体験型防災プログラム開催概要

日時：平成29年10月15日（日） 11:00～15:00

※体験型防災プログラムブース開設時間は概ね11:15～14:00

会場：等々力陸上競技場

①メインスタンド側3階コンコース（計5ブース）

②7番ゲート付近（非常食体験ブース）

目的：無関心層・未経験層の参加のきっかけづくり、防災意識の啓発

方法：参加する親子が、サッカー教室以外の時間帯に、自由に参加できるプログラムの一つとして提供

2) 体験型防災プログラムブース

①ロープ結び 災害時に役立つ結び方を学ぼう！

内容：災害時等に役立つロープ結び（3種）の紹介

協力：ボーイスカウト・ガールスカウト中原区協議会

②外国人とコミュニケーション 外国人と話してみよう！

内容：川崎市内にどんな国の方がいるか知る、国旗に色を塗る

その国の言葉や挨拶、災害時に役立つ単語などを知る など

協力：川崎市国際交流協会、外国人ボランティア

③携帯トイレの使い方 災害時のトイレをそなえよう！

内容：携帯トイレの展示・使い方の解説のデモンストレーション

災害時のトイレ事情の解説・パネル展示 等

協力：東京ガス株式会社

④車椅子体験 車椅子に乗ってみよう！

内容：車椅子利用者が必要な支援や注意事項等の説明

車椅子に乗る体験・押す（支援する）体験

協力：NPO 法人川崎介護福祉士会



①ロープ結び



②外国人とコミュニケーション



③携帯トイレの使い方

取組検討・実践Ⅱ：中原区総合防災訓練

基となった取組提案

■取組提案Ⅰ-①：体験型防災プログラムの実施推進

サッカー教室、総合防災訓練などの場で体験型防災プログラムの導入

■提案Ⅰ-②：避難所運営ゲーム（HUG）等の実施推進

避難所が直面する課題を模擬体験

■提案Ⅲ：防災情報の発信

在宅避難の薦め、家庭内備蓄など必要な備えや防災に関する知識の発信

■提案Ⅴ：震災体験の講話・講演

震災時の被災地の状況や体験、取組等の発信

取組の検討

(1) 中原区総合防災訓練の視察

年2回、中原区の4地区で順番に開催される「中原区総合防災訓練」で、「避難所開設ツアー」の体験、会場内の展示・体験ブースを視察しました。

(2) 意見・提案の収集

視察を通じて気付いたことや意見・提案などを記入シートを用意して収集、内容のまとめを部会で行いました。

取組の実践結果

(1) 第1回 中原区総合防災訓練視察

日時：平成29年9月3日（日）

10:00～11:30

場所：大戸小学校

参加委員：15名



避難所開設ツアー内 特設公衆電話設置



避難所開設ツアー 備蓄倉庫内確認



アウトドアコーナー



減災マップの作り方

その他、実施されていた（視察した）プログラムの例

転倒家具からの救出／消火ホースキット・消火器／119番通報／煙中避難／災害廃棄物収集／
仮設トイレ／口腔ケア／災害時ペット対応／要配慮者対応／非常食炊き出し／耐震住宅模型など…

取組検討・実践Ⅱ：中原区総合防災訓練

■参加委員の意見等

- ・もっと多くの区民に参加してもらわないともったいない。広報等を充実できないか？
- ・アウトドアグッズの進化に驚いた。災害伝言ダイヤルなど初めての体験ができた。
- ・ツアーで避難所開設のソフト面とハード面、両方が良く理解できた。
- ・身近な物を活用した応急処置はとても参考になった。煙体験なども良かった。
- ・ペット防災、簡易防災グッズなど「備え」についてのアイデアを得られた。
- ・弾道ミサイル発射時の対応など、地震以外の災害に対する訓練も必要なのでは。

(2) 第2回 中原区総合防災訓練視察

日時：平成30年2月11日（日）

10:00～11:30

場所：上丸子小学校

参加委員：15名



避難所開設ツアーに出発▶



台風体験



災害用特別車両展示



救急救命講習

■参加委員の意見等

- ・避難所開設責任者自らの話・体験談が良かった。前回より分かり易いツアーになっていた。
- ・体育館内でブルーシートに一人分の就寝スペース幅が示されていたが狭く感じた。
- ・ボックストイレやマンホールトイレについて知れて良かった。
- ・台風体験が目をつけた。様々な災害想定が取り入れられると良い。
- ・外国人の受入体験コーナーがあると良い。翻訳アプリの活用は良いが、改善が必要。
- ・スタンプラリー制を取り入れてはどうか。人気の非常食はスタンプを集めた人対象とする。
- ・もっと分かり易い正面口への誘導、入り易い雰囲気づくりが必要だ。
- ・備蓄倉庫の備蓄品の少なさ、家庭内備蓄の重要性を認識した。
- ・もっと楽しさや学びを表すようなネーミングや広報が必要ではないか。
- ・発電機用のガソリンや非常食の賞味期限など要チェック事項が学べて良かった。

取組検討・実践Ⅲ：中原区総合防災マップ

基となった取組提案

■取組提案Ⅱ：中原総合防災マップづくり

既存の防災資料を一括化し、地域レベルでカスタマイズできる物に

■提案Ⅵ：安否確認・避難所運営に資する資料の製作と活用

無事ですカード、避難所運営多言語化掲示などの製作と活用

取組の検討

(1) 中原区総合防災マップへの提案

中原区役所が作成を進めている「中原区総合防災マップ」は、防災に関する情報は“この1冊で OK”をコンセプトに各種防災マップや防災・啓発情報などを一冊にまとめ、区内全戸に配布される予定となっています。

平成28年度内に区民会議が取りまとめた総合防災マップの編集の考え方や掲載内容、編集方法などの提案内容が反映されるよう働きかけや進捗状況を部会で確認しました。

(2) 防災コラム欄の検討

マップの余白欄を活用した防災に関するコラムやクイズ等の掲載の提案を行い、区民に役立つ掲載内容についても、検討を進めました。

取組の実践結果

(1) 中原区総合防災マップへの反映

区民会議の提案がそのまま、もしくはその一部が、何らかの形で反映が見込まれている内容は以下のとおりです。

- ・既存のマップや資料を一括化。色分け等によるわかりやすい表示
- ・身近な地域レベルで書き込みができるマップの掲載
- ・家族等に無事を知らせる「無事ですカード」を使いやすい形で掲載
- ・「日常からの備え」「災害発生時の対応・行動」のガイドの掲載
- ・余白欄を活用した防災コラムの掲載 等



取組検討・実践Ⅲ：中原区総合防災マップ

(2) 防災コラム欄の検討→「なかはら防災一口メモ」の作成

マップの余白欄を活用した防災に関するコラムやクイズ等の掲載について、具体的な内容を検討しました。

集めた防災に関する豆知識を基に、「なかはら防災一口メモ ～災害に強い、ユニバーサルなまちに」を A4 版両面のチラシ形式で作成しました。

平成 30 年 5 月にこすぎコアパークで開催予定である「中原区区民会議成果祭」などの場で配布予定です。(▶P.39)

なかはら 防災一口メモ

災害に強い、ユニバーサルなまちに！

企画・編集：第6期中原区区民会議
※ご自由にご活用ください。

☑ チェックしてみよう！



中原区区民会議キャラクター ためきくん

備えておこう！①（自宅編・自分の身を守る）

■「安全ゾーン」を決め/つくっておく

☐ **安全ゾーン＝地震の際に逃げ込む場所**
柱が多い所、落下物・倒れてくる物やガラスが近くに無い所、自宅では玄関やトイレ等

■生活空間の安全性を高めておく

☐ **寝室の安全確保**…タンスなど倒れる・落ちる物は置かない。木造家屋は 2 階に寝る
☐ **家具を固定**…ただし、大地震では転倒防止器具が外れる場合も想定する
☐ **命捨てるな、物捨てる**…物が多い空間＝危険が多い空間
☐ **ガラス対策**…飛散防止フィルムを貼る

■「在宅避難生活」の準備をする

☐ **避難所の限界**…収容可能人数が限られ、決して快適でない避難所
 →建物が無事な場合は、**自宅で生活を続ける＝「在宅避難」が基本**
☐ **在宅避難訓練**…電気ガス水道が使えない生活を事前にシミュレーション
☐ **在宅避難の備え（例）**…下記「家庭内備蓄」参照
☐ **排水溝や側溝の清掃**…ゴミや落ち葉が、水害や地震の際に冠水や逆流の原因に

■家庭内備蓄をする

☐ **食糧と水**…家族用 7 日間分は常備！水は一人 1 日 3 ℓ 目安で
☐ **備蓄品（例）**…応急手当品、生理用品、ウェットティッシュ、
 防塵マスク、滑り止め付き軍手、タオル・手ぬぐい、ポリ袋、
 毛布、輪ゴム、カイロ、笛、家庭用消火器、LED ランタン、
 ラジオ、予備電池、簡易トイレ、消臭剤、カセットコンロ、ほか
☐ **枕元に備えておこう**…メガネ、運動靴、厚手靴下

■携帯電話・スマホの活用法を知り、緊急時のバッテリーを確保する

☐ **幅広い活用方法**…災害情報、伝言板、テレビ、ラジオ、地図、ライトなど
☐ **バッテリー**…日頃から充電、電池式充電器、予備バッテリー、省エネモード活用

■貴重品の持ち出し準備をしておく

☐ **貴重品の持ち出し準備**…預金通帳、現金、保険証など
☐ **身分証明**…運転免許証、パスポートなど

■災害時に正しい情報を得るための準備をする

☐  **メールニュースかわさき**
 「防災気象情報」登録
空メールを送って登録手続き

☐  **かわさき防災アプリ**
 ◀ iPhone 用 (左)
 Android 用 (右) ▶ 